

〈指導例1 小学校 国語〉

小学校4年 国語〔東京書籍〕
「みんなで新聞を作ろう」(P70～75)

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

- ◆ 防災教育としてのねらい
防災についての新聞を作り、防災意識を高められるようにする。
- ◆ 具体的な指導
 - 防災に関することを取材し、「今の自分たちにできること」を伝える新聞を「防災の日」に発行するという学習課題を設定し、学習計画を立てさせる。
 - 子どもが興味を抱きやすい防災テーマをいくつか具体的に数例示す。
(例：備蓄食の種類、サバイバルクッキングのレシピ、避難袋おすすめグッズ、防災倉庫の中身、避難所生活の様子、災害時に家族と連絡を取る方法等)
 - 「防災の日」に発行する新聞の読み手を誰に設定するかによって、単元におけるまとめの活動を工夫する。
(例1 家族：家族会議で話し合ったことを学級で報告し合う。)
(例2 低学年：学級活動の時間にペア学級を訪問し、調べたことを伝える。)
(例3 地域の人：取材でお世話になった部署に新聞を届けに行く。)等
- ◆ 発展
市の防災担当部局職員、消防署員、防災士、気象予報士、防災に取り組んでいる NPO 法人、地域の自主防災会等を外部講師に招き、現実的・実地的な知識や技術を補足してもらう。
〔留意事項〕
外部講師を招く場合には、事前に、学習のねらいや学習内容及び依頼内容等について打ち合わせておく。
- ◆ 国語の関連する単元
 - 小3 調べて書こう、わたしのレポート〔東京書籍〕
 - 小5 伝えよう、委員会活動〔東京書籍〕
- ◆ 第4学年における他教科の関連する単元
 - 社会 地震からくらしを守る〔東京書籍〕
 - 総合的な学習の時間（災害に関することを追究テーマにする場合）

〈指導例2 小学校 社会〉

小学校3年 社会〔東京書籍〕

「学校のまわり」(上 P4~19)

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

自分たちが住んでいる身近な地域の特色ある地形や土地利用の様子等を知り、災害の危険性を理解できるようにする。観察や調査をしてわかったことを絵地図や白地図にまとめることで、自ら安全な行動ができるようにする。

◆ 具体的な指導

- 町探検に出かけ、地震や風水害、土砂災害等、様々な災害が起こりうる危険な箇所や人々の安全を守るための施設等を見つけさせる。
- 町探検でわかったことを絵地図や白地図にまとめ、気付いたことについて意見交換させることで、自分たちの地域の特徴等について考えを深めさせる。
- 過去の災害による被害状況の記録や写真、地域の航空写真、ハザードマップ等の資料を示し、自分たちの地域における災害の危険性や人々の安全を守るための工夫について考えさせる。
- 地域の方を招いて過去の災害についての話を聞いたり、地域の方々への聞き取り調査をしたりして、地域の人々の生活の様子について考えさせる。

◆ 発展

伊勢湾台風や東海豪雨等、過去に起きた身近な災害の記録や写真等の資料を提示し、自分たちが住んでいる地域においても起こりうる災害であることを認識させていくことで、子どもたちの学習活動に切実感をもたせたい。

◆ 参考

- 市町村ごとに作成された小学校社会科副読本
- 愛知県防災局ウェブサイト「歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト」
- 名古屋地方気象台ウェブサイト「気象災害特性と気象災害の記録」
「愛知県内の主な気象災害の記録」

◆ 社会の関連する単元

- 小3 市のようす〔東京書籍〕
- 小4 地震からくらしを守る〔東京書籍〕
- 小5 情報産業とわたしたちのくらし〔東京書籍〕
- 小5 社会を変える情報—防災と情報化—〔東京書籍〕
- 小5 自然災害を防ぐ〔東京書籍〕
- 小6 首都圏をおそった関東大震災〔東京書籍〕
- 小6 震災復興の願いを実現する政治〔東京書籍〕

◆ 第3学年における他教科の関連する単元

- 国語 インタビューをしてメモを取ろう〔東京書籍 上〕
- 国語 町について調べてしょうかいしよう〔東京書籍 下〕
- 理科 光のはたらきをしらべよう〔大日本図書〕

〈指導例3 小学校 社会〉

小学校5年 社会〔東京書籍〕

「情報化した社会とわたしたちの生活」(P58～99)

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

放送局等から伝えられる情報が、災害時の避難行動や避難生活に大きな影響を及ぼしていることに気付くことができるようにする。また、災害の危険を理解し、情報を的確に判断することにより、自他の安全や安心できる生活を確保するための行動ができるようにする。

◆ 具体的な指導

- 東日本大震災の映像や写真、被災者の体験談等を示し、自らの安全を確保するために必要な情報の受け止め方や活用の仕方について考えさせる。〔参考1〕
- 復旧活動や避難所生活の様子についての報道から、被災地の人々が困惑したり混乱したりした事例を示すことで、情報の正しい理解や適切な生かし方について考えさせる。
- 県や市町村等による段階的な防災気象情報等について調べ、整理させることで、防災や減災にむけた情報の活用方法を理解させる。〔参考2〕

◆ 発展

地方気象台等の関係機関から講師を招聘して、講演会や出前授業等を開催することで、防災気象情報の活用の仕方等を直接学ぶこともできる。

◆ 参考1

- 内閣府ウェブサイト「TEAM 防災ジャパン」
- 気象庁ウェブサイト「災害から身を守ろう」(様々な防災コンテンツ紹介)

参考2

- NHK 東日本大震災アーカイブス「地震発生から72時間」、「証言 Webドキュメント」等
- 愛知県防災局ウェブサイト(防災情報やライフライン情報等)
- 各市町村のウェブサイトや地域の広報誌

◆ 社会の関連する単元

- 小4 地震からくらしを守る〔東京書籍〕
- 小5 自然災害を防ぐ〔東京書籍〕
- 小6 首都圏をおそった関東大震災〔東京書籍〕
- 小6 震災復興の願いを実現する政治〔東京書籍〕

◆ 第5学年における他教科の関連する単元

- 国語 伝記を読んで自分の生き方について考えよう
～百年後のふるさとを守る～〔光村図書〕
- 理科 台風と天気の変化〔東京書籍〕
- 理科 流れる水のはたらき〔東京書籍〕
- 保健 自然災害によるけがの防止〔東京書籍〕
- 保健 けがの手当〔東京書籍〕

〈指導例 4 小学校 算数〉

小学校 4年 算数〔啓林館〕

「面積」(P2～12)

防災教育で育てたい柱

【学 ぶ】

【考 え・動 く】

【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

災害時には避難所となりうる学校の体育館（教室でも可）に収容できる最大人数や、ある程度快適に生活するための収容人数について考えさせた後、過去の災害時の体育館収容人数を知ること、避難所生活の状況を想像し、その中で必要な配慮について考えるきっかけとすることができる。

◆ 具体的な指導（グループワークが望ましい）

- 1 東日本大震災等で避難所になった学校の体育館（教室）の写真を見せ、避難所のイメージをもたせる。（見せずに2から入ってもよい。）
- 2 自校の体育館（教室）の一辺の長さを示し（測定し）、面積を計算させる。
- 3 一人が生活する面積としてどの程度必要となるのか、新聞紙を広げ、座ったり寝転がったりしながらイメージさせる。その際、大人と子どもの必要面積の違い、荷物置場や移動のためのスペースも必要となることに気付かせられるとよい。
- 4 2、3から、避難所として受け入れることができる人数を計算させる。
- 5 4の人数と、過去の避難所の収容人数とを比較（実際に多くの避難住民が集まった体育館では、4の人数を大きく上回ると思われる。）し、避難所生活におけるストレス等について触れ、自分に何ができるかを考えさせる。

◆ 発展

体育館と教室を避難所として開放した場合の、学校全体の受け入れ可能人数を計算し、地域住民の人口と比較する。そこからさらに、倒壊等の危険がなければ自宅に留まることの必要性や、その人たちへの食糧等の配給方法等、様々な課題について考えさせる。

◆ 算数の関連する単元

小5 面積〔啓林館〕

単位量あたりの大きさ〔啓林館〕

◆ 第4学年における他教科の関連する単元

社会 地しんからくらしを守る〔東京書籍〕

社会 風水害からくらしを守る〔東京書籍〕

社会 安全なくらしを守る〔日本文教出版〕

〈指導例 5 小学校 算数〉

小学校 6年 算数〔啓林館〕

「速さ」(P118～125)

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

速さ、時間、道のりの関係を学んだ後、自分の走る速さ、最短津波到達時間、高台等の安全な場所までの距離から、津波から逃げ切ることができるかどうか計算する。また、津波の陸上での速さは約 36km/h 即ち 10m/s とオリンピック短距離選手並みであり、津波を見てから逃げているは、逃げ切れないことに気付くことができる。

◆ 具体的な指導

- 1 地震発生時に予想されている、最短津波到達時間を示す。
- 2 学校から高台等の安全な場所までの距離を、地図等を利用して確認させる。
- 3 1、2から津波到達より早く高台等へ逃げるには、いくらの速さで移動することが必要かを計算する。(高台へ登るときは移動が遅くなることも考慮に入れられるとよい。)
- 4 校庭で、3の速さがどれくらいなのか体感する。
- 5 お年寄りや体が不自由な人が、同様の速さで移動することが可能かどうかを考える。それが難しい場合の対応として、3階建以上の建物を新たな避難先として考慮する取組等を紹介する。

(取組例：NHK スペシャル『大避難 ～命をつなぐシナリオ～』)

- 6 津波の速さは右図に示すようになりに速く、津波が見えてから逃げ切るとは難しいことも伝える。



出典 津波の伝わる速さ (気象庁)

〔留意点〕

各市町村別の最短津波到達時間は、「平成 23 年度～25 年度愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果」(愛知県防災会議地震部会、平成 26 年 5 月)や「愛知県防災学習システム」(愛知県防災局防災危機管理課ウェブサイト)で確認することができる。津波到来が想定されていない地域の学校においては、他地域の数値を用いて考えさせる。

◆ 発展

「割合を使って」(P190)を用い、途中まで走り、途中から歩いた場合の安全な場所までの到達時間についても考えさせる。

◆ 算数の関連する単元

小6 割合を使って〔啓林館〕

◆ 第6学年における他教科の関連する単元

- 社会 震災復興の願いを実現する政治〔東京書籍〕
- 社会 災害の発生と政治のはたらき〔日本文教出版〕
- 理科 わたしたちのくらしと災害〔東京書籍〕
- 理科 火山活動や地震による土地の変化〔大日本図書〕
- 理科 地しんや火山と災害〔教育出版〕

〈指導例6 小学校 算数〉

小学校6年 算数〔啓林館〕

「みらいへのつばさ（備蓄計画）」（P186～187）

防災教育で育てたい柱

【学ぶ】

【考え・動く】

【実現・貢献】

- ◆ 防災教育としてのねらい

家庭における備蓄計画を立てることで、災害後に役立つものについて理解を深め、災害後の生活を考えた備えができるようになる。
- ◆ 具体的な指導
 - 1 埼玉スタジアムの備蓄倉庫の様子を示す。
 - 2 家庭で、災害に備えて用意しているものについて意見を出し合わせる。
 - ・ 飲み水や食料品がどれくらい必要なのか。
 - ・ 非常持ち出し袋にはどんなものが入っているか。
 - 3 飲み水と食料の備蓄量として、教科書では3日分と示されているが、中央防災会議では「1週間分以上が必要」と述べられている。ここでは、7日分を備蓄するとして、それぞれの家庭における備蓄計画を立てさせる。
 - ・ 飲み水 $3\text{ L} \times 4\text{ 人} \times 7\text{ 日} = 84\text{ L}$ $84\text{ L} \div 2\text{ L} = 42\text{ 本}$
2 Lのペットボトルが42本必要である。
 - ・ アルファ米 $1\text{ 袋} \times 3\text{ 食} \times 4\text{ 人} \times 7\text{ 日} = 84\text{ 袋}$
アルファ米（100g）が84袋必要である。
 - ・ かんパン、かんづめ等 …
 - 4 子どもたちが立てた備蓄計画を持ち帰らせることで、家庭でも話し合いが行われ、災害対策を見直す機会となるよう働きかけるとよい。
- ◆ 発展
 - 学校や市民館、市の防災備蓄倉庫等、身近な場所で備蓄されているものを見学することで、災害に備えることの必要性を実感させたい。
 - 7日分以上の食料はかなりの量になることから、ローリングストック法（指導例20参照）を紹介するとよい。
- ◆ 参考

首相官邸ウェブサイト「災害に対するご家庭での備え～これだけは準備しておこう！」
- ◆ 算数（数学）の関連する単元
 - 中1 琵琶湖の水位〔啓林館〕
 - 中1 緊急地震速報（Math Naviブック）〔啓林館〕
 - 中1 資料から防災を考える（Math Naviブック）〔啓林館〕
 - 中2 雷さまはどこ？〔啓林館〕
- ◆ 第6学年における他教科の関連する単元
 - 社会 これからの日本を考えよう〔東京書籍〕
 - 社会 震災復興の願いを実現する政治〔東京書籍〕
 - 社会 災害の発生と政治のはたらき〔日本文教出版〕
 - 理科 わたしたちのくらしと災害〔東京書籍〕
 - 理科 火山活動や地震による土地の変化〔大日本図書〕
 - 理科 土地のつくりと変化〔教育出版〕
 - 理科 地しんや火山と災害〔教育出版〕
 - 保健 自然災害にそなえよう〔大日本図書〕

〈指導例7 小学校 理科〉

小学校3年 理科〔大日本図書〕

「光をあてたところの明るさとあたたかさ」

(P91～96)

防災教育で育てたい柱

【学ぶ】

【考え・動く】

【観・貢献】

◆ 防災教育としてのねらい

「光を重ねると光が当たっている部分があたたまる」実験を通して、災害時にお湯を確保することに光が役立つことが分かる。

◆ 具体的な指導

- 光を集めて水をあたためる実験を行う。ペットボトル、アルミニウムの板、鏡等を用意し、実際に温水を作らせる。(教科書 P94 図)
この方法で温度を上げた後にカセットコンロ等を使うことで、ガスや電気を節約できることを教える。
- 虫眼鏡(凸レンズ)の性質を利用して光を一点に集め、紙等に火を付けることができることも合わせて指導するとよい。

◆ 発展

- ソーラークッカーについて説明する。(教科書 P96)
(参考：蒲郡東高等学校 高校生防災セミナーにおける実践例
<http://www.gamagorihigashi-h.aichi-c.ed.jp/bousai/bousai.html>)
ただし、ソーラークッカーで利用される凹面鏡の原理は高校での学習範囲なので、小学校や中学校で扱う場合は学習内容に注意する。

◆ 参考

災害時に電気・ガス等のインフラが停止すると、調理用等のお湯を確保することが難しくなる。阪神淡路大震災や東日本大震災等の巨大地震においては、電気、水道、ガスの順で復旧が進んだ。

〔資料〕

京都大学首都直下地震防災・減災特別プロジェクト 平成23年度 第4回成果発表会「東日本大震災におけるライフライン被害と今後の課題」

岐阜大学工学部社会基盤工学科 教授 能島暢呂

https://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp/medr/data_public/20120224_results04/data/120224_04_nojima.pdf

◆ 理科の関連する単元

小5 流れる水のはたらき〔東京書籍〕

中1 光の性質〔大日本図書〕

〈指導例 8 小学校 理科〉

小学校 4年 理科〔大日本図書〕 「水と空気のあたたまり方」(P120～124)

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

- ◆ 防災教育としてのねらい
あたためられた空気は上へ移動（対流）するから、火災時には体勢を低くして避難することの必要性に気付くことができる。
- ◆ 具体的な指導
 - あたためられた空気が対流しつつ上にたまることを、線香の煙を使った実験（教科書 P123）でイメージさせる。火事で発生する煙も同じであることから、避難時には体勢を低くすることが大切である理由に気付かせる。
- ◆ 発展
 - 火災で発生する煙は、おおよそ垂直方向には毎秒 3～5 m、水平方向には毎秒 0.5～1m 移動するとされている。社会科の消防署見学等と関連させ、消防署員による講話を取り入れると効果的である。
 - 本単元と直接関係はないが、同時に一酸化炭素中毒についても伝えられるとより効果的である。
- ◆ 理科の関連する単元
 - 小 6 もの燃え方〔大日本図書〕
 - 中 1 いろいろな気体〔大日本図書〕
- ◆ 第 4 学年における他教科の関連する単元
 - 社会 火事からくらしを守る〔東京書籍〕
 - 社会 なくそう、こわい火事〔日本文教出版〕

〈指導例 9 小学校 理科〉

小学校 6年 理科〔大日本図書〕 「てこのはたらき」(P138～153)

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

- ◆ 防災教育としてのねらい
力を増幅することができる「てこの原理」は、災害時に役立つことを学ぶ。
- ◆ 具体的な指導
 - てこの一例として缶切りを取り上げ、そこから災害時の非常食としての缶詰の話題につなぐ。
 - 倒壊家屋に挟まれている人を想定し、てこを使って助ける方法を考えさせる。(教科書 P138 図)
- ◆ 発展
 - この単元を扱う 9 月には、「防災の日」がある。この日は 1923 年（大正 12 年）9 月 1 日の大正関東地震（いわゆる関東大震災）が発生したことにちなみ、1960 年（昭和 35 年）に災害への戒めを込め制定されたものである。
 - 消防署と連携し、実際に倒壊家屋からの人命救助体験をするのもよい。
- ◆ 理科の関連する単元
 - 小 5 わたしたちのくらしと災害〔東京書籍〕
 - 小 5 流れる水のはたらき〔大日本図書〕
 - 小 6 地しんや火山の噴火と大地の変化〔東京書籍〕
 - 小 6 私たちのくらしと災害〔東京書籍〕
 - 小 6 火山活動や地震による土地の変化〔大日本図書〕
 - 中 3 力のはたらき〔大日本図書〕
- ◆ 第 6 学年における他教科の関連する単元
 - 社会 震災復興の願いを実現する政治〔東京書籍〕
 - 社会 災害の発生と政治のはたらき〔日本文教出版〕



〈指導例 10 小学校 生活〉

小学校 2年 生活〔大日本図書〕

「春の町ではっけん」(下 P22~29)

「わたしの町はっけん」(下 P52~75)

防災教育で育てたい柱		
【学 ぶ】	【考 え・動 く】	【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

通学路を中心に、町あるきを防災の視点で行う。「通学路防災マップ」を作成し、通学路の危険を知るようになる。また、発展として1年生に向けて発表を行うことで、調べたことをまとめ、伝えることができるようにする。

◆ 具体的な指導

- 1 通学路の危険には、交通安全や防犯の他に、防災の視点もあることを知らせ、自然災害が発生した際に危険な場所はどこか意見を出させる。
- 2 自分の地区ごとに探検に行き、自然災害が発生した際に危険な場所と、防災対策が施されている場所・ものを見つけて地図に書き込ませる。
- 3 地図に書き込む際には、災害種別、危険と対策別に異なるシールを貼らせる。
- 4 作った防災マップを使って、地区ごとに発表させる。
- 5 見落とししている危険や対策の見つけ方を知らせるため、先に教師が作った防災マップを元にして、全体で書き足すところはないか話し合わせる。

◆ 発展

- 1 1年生に向けて発表する。1年生に分かりやすい説明ができるよう、班ごとに発表の練習を行い、アドバイスし合う時間を設ける。
- 2 全校児童や地域の人にも通学路の危険と対策について知ってもらうためには、掲示・縮小して配布する等、このマップをどのように活用するとよいか話し合わせる。

◆ 生活科の関連する単元

- 小1 わたしのがっこうどんなところ〔大日本図書 上〕
- 小1 がっこうだいすき〔東京書籍〕
- 小1 がっこうとともだち〔啓林館〕

〈指導例 1 1 小学校 音楽〉

小学校 6年 音楽〔教育出版〕

「花は咲く」(P60～61)

防災教育で育てたい柱

【学 ぶ】

【考 え・動 く】

【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

この曲が、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の被災地および被災者の物心両面の復興を応援するために制作されたチャリティーソングであることを紹介し、いつまでも震災について忘れない思いと震災の教訓から生まれた将来に向けての思いを込めて歌うことができるようになる。

◆ 具体的な指導

- 歌詞について自分なりの解釈をさせる。
- 歌詞についての個々の解釈をクラス内で意見交換し、理解を深めさせる。
- 東日本大震災の記録を確認させる。
- 自分の地域が被災した場合の状況や気持ちを想像させる。
- 作詞、作曲者、編曲者の思いを考えさせる。
- 心情を思いうかべながら、合唱させる。

◆ 発展

- 自分で（クラスで）防災に関する詞を書き、曲を作ってみる。出来上がった曲を、防災をテーマとした総合的な学習の時間のまとめとして発表する場を設ける。
〔参考〕愛知県立海翔高等学校 防災ソング「つなぎたい未来」

◆ 音楽の関連する単元

小5 ところからところへ〔教育出版〕



〈指導例 1 2 小学校 家庭科〉

小学校 6年 家庭科〔東京書籍〕

「思いを形に 生活に役立つ布製品」(P82~89)

防災教育で育てたい柱

【学 ぶ】

【考 え・動 く】

【実 現・貢 献】

◆ 防災教育としてのねらい

目的に合った形や大きさ、機能等を考えながら、生活に役立つ布製品を作る単元において防災関連のものを作ることで、防災に対する関心を高め、避難用品について再考できるようにする。

◆ 具体的な指導

- 本単元は個々が希望する布製品作りを行うため、全員に作らせることは難しいが、防災頭巾や非常持ち出し袋（巾着袋）等を製作の選択肢に加えることで、防災に対する関心を高めさせる。

◆ 参考

- 中学1年家庭科教科書〔東京書籍〕には、非常持ち出し袋が製作例として掲載されている。
- バスタオルを利用して防災頭巾を作ることもでき、この場合は、5年生で学ぶ手縫い程度で取り組むことが可能である。



◆ 家庭科の関連する単元

小5 ひと針に心を込めて〔東京書籍〕

小5 ミシンにトライ！ 手作りで楽しい生活〔東京書籍〕

中1 生活を豊かにするために〔東京書籍〕

◆ 第6学年における他教科の関連する単元

社会 震災復興の願いを実現する政治〔東京書籍〕

社会 災害の発生と政治のはたらき〔日本文教出版〕

理科 わたしたちのくらしと災害〔東京書籍〕

理科 火山活動や地震による土地の変化〔大日本図書〕

理科 地しんや火山と災害〔教育出版〕

〈指導例 1 3 小学校 保健〉

小学校 5 年 保健〔大日本図書〕

「自然災害にそなえよう」(P26)

防災教育で育てたい柱		
【学ぶ】	【考え・動く】	【実現・貢献】

- ◆ 防災教育としてのねらい
地震によるけがの防止を図るために、日頃の備えとして、今の自分に何ができるのかを考えさせ、さらにはそれを実行できるようにする。
- ◆ 具体的な指導
 - 自分の部屋、または、家族で過ごす部屋で大地震が起きたときに想定できる危険を減らすために、何ができるかを考えさせる。
 - 物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」部屋作りを観点に家族で話し合う機会を設定し、「我が家で今できること」を具体的に考えさせる。
 - 災害時にはライフラインが止まってしまうことを学んだ上で、そのような状況・環境の中で、けがの防止や処置をしなければならないことをおさえる。
- ◆ 発展
市の防災担当部局職員、消防署員、防災士、気象予報士、防災に取り組んでいる NPO 法人、地域の自主防災会等を外部講師に招き、現実的・実地的な知識や技術を補足してもらう。
〔留意事項〕
外部講師を招く場合には、事前に、学習のねらいや学習内容及び依頼内容等について打ち合わせておく。
- ◆ 保健の関連する単元
 - 小5 けがの原因〔大日本図書〕
 - 小5 学校や地いきでのけがの防止〔大日本図書〕
 - 小5 けがの手当〔大日本図書〕
 - 小5 大切な命 絆（きずな）〔大日本図書〕
- ◆ 第5学年における他教科の関連する単元
 - 国語 資料を生かして考えたことを書こう〔東京書籍〕
 - 国語 明日をつくる私たち〔光村図書〕
 - 社会 自然災害を防ぐ〔東京書籍〕
 - 社会 自然災害から人々を守る〔日本文教出版〕
 - 総合的な学習の時間（災害に関することを追究テーマにする場合）